

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

第21回 全国障害児学級&学校 学習交流集会 in 東京 (オンライン)

1月9日〜10日の2日間、「こそ、子どもの気持ちや発達を一番大切にする教育を」とつながりあい、学びあって、未来を切り開こう」をテーマに、オンラインによる「第21回全国障害児学級&学校学習交流集会」が開催され、全国から600人をこえる教職員、保護者、研究者、学生などが集まりました。大障教は、独自のサテライト会場を設置し、会場に集まった参加者でリアルに学び、個人参加も含め約40人が参加しました。

子どもたちが教えてくれたこと

全体会のメイン企画は、「創造していきこう！子どもにあわせた学びを、そして学校を」をテーマに、現任教員2人の報告と卒業生青年の対談がおこなわれました。



大障教のサテライト会場の参加者

前半の報告では、立川都さ（障害児学級教員）は、情緒障害や愛着障害など、さまざまな実態の子どものために特別支援学級の実践を通して、子どもの行動からだけでなく子どもの内面を読む大切さや、クラスが子どもの『居場所』となるなかで、認め合える仲間との関係やありのままの自分であることができるとの大切さを語りました。佐藤比呂二さん（障害児学級教員）は、自閉症の子どもの関わりから、3つの大切さを強調しました。1つめは、目に見える言動に惑わされず子どもの「心の声」と会話すること、2つ目は、子どもは

「下りよい自分との出会い」によって「自分で自分を支えたい」願いを高めていくこと、そして3つ目は、子どもの心のなかの「ホントの願い」の高まりによって「子どもがみずから変わっていく」ことを語りました。また、病弱教育の

生きる希望はぐくむ障害児教育を

最後に、佐藤さんが組合に入ってから初めて聞いた講演会で、いまでも心に残る言葉として、「障害児教育とは、生きる希望を語ること、生きる希望を培うこと。どんなに重い障害があっても、生まれてきてよかった、生きてきてよかった、生きていくんだ」という希望を語る実践を、今日、国語で算数で音楽で養訓（現在の自立活動）でやってきているのか。それが教師にとって自らに問うすべてである」という清水寛先生（教育学者）の言葉を

実践を通して、笑顔と笑い声のあるふるる教室、かけがえのない仲間とのつながりが、闘病生活を自分の人生の一部として「大切に思える日々」に変えていくことを子どもたちが身をもって教えてくれたと話しました。

青年の「自分らしさ」あふれる現地歓迎行事も

開会全体会のオープニング企画では、「和太鼓サークル朝日大鼓」による演奏、大空記念クリアファイルをデザインした「ぼくらの美術研究所」の報告、「ダンスサークルRISE（ライズ）」によるダンス発表がおこなわれました。障害のある青年たちが自分たちのアイデアや思いを出しあうなかでつくりあげてきた3つの発表は、どれも魅力的で「自分らしさ」が

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



2021年の国民1人当たりGDP（市場為替レートによるドル表示）において、日本は4万704ドルで、世界第24位だそうだが、2000年の頃は、ルクセンブルクに次ぐ世界第2位で、第5位のアメリカよりも8%高かった。アベノミクスが始まる直前の2012年で、世界第13位。第10位のアメリカの95%だった。以後、アベノミクスの期間を経て、さらに降下の一途をたどっている。自国通貨建てで国民1人あたりのGDPの2000年から2021年の増加率をみても、日本の4.6%に対して、アメリカが91.0%、韓国が188.0%、イギリスが78.5%、ドイツが64.2%となっていて、日本の伸び率の異様なまでの低さが浮き彫りとなる。とどのつまり、日本の相対的な豊かさの比率は、1970年代の水準に戻りつつある。

次に、地球上で人間が安全に生存するために重要な9つの領域について、どの程度限界が迫っているのかを示す「フラスネター・バウンダリー」で、生物多様性の喪失にあたる「絶滅の速度」は、「気候変動」よりも危機的な状況にあり、すでに人間が安全に生存できる境界を越えるレベルに達している。イギリス政府が2021年2月に発表した報告書「生物多様性の経済学」や生活により、地球上の自然の資産「自然資本」は1992年から2014年にかけて40%減少したと試算し、「持続可能な経済成長にはGDPと異なる尺度が必要」と提唱した。

消費者として、有権者として、そして働く個人として、実感の伴わない経済成長を追い求める従来の尺度にとられないものの方が大切になっている。

☆☆☆☆☆☆ あつまれ青年！ ☆☆☆☆☆☆ みんなで青年フェスタで学びあおう！

青年部長からの青年フェスタへの案内と呼びかけ

青年部のみなさん（未組の青年のみなさんも）！こんにちは！

今年度より新しく青年部長を務めさせて頂くことになりました。堺支援学校大手前分校の奥 正行（おく まさゆき）と申します。各学校で日々頑張っておられる、全ての青年部のみなさんといっしょに、ステキな青年部を創っていきたくと思っています。☆どうぞ、よろしくお願ひします！

さて、2022年が始まりました。未だに終わりが見えない新型コロナウイルスの中で、不安や、もどかしさを感じておられる方も多いのではないのでしょうか。

それでも、「他の学校の先生や仲間とつながりたい」「自分の学校の話聞いてほしい、交流したい」こうした思い・ねがいを持っておられる青年部のみなさんの「接着剤」となるように、これから頑張っていきます！その取り組みの1つとして「青年部だ



青年部長の奥正行さん

より」を不定期で発行していきます。たくさんの方の行事や取り組みなどの案内、紹介もお待ちしておりますので、楽しみに待っていてください！

また、「やってみよう」とや「取り組んでほしいこと」などあれば、気軽に伝えてください！工夫しながら、できる限り「みなさんがつながる・交流できる」場を創っていきたくと思っています！

「第33回青年フェスタ」に参加してみませんか？
たくさんの方の先生方が集い、「自分の興味のある分野での学び、実践を語る・聴きあう中で交流できる場」それが「青年フェスタ」です！
僕自身も5年ほど青年フェスタに参加していますが、たくさんの方の先生方との輪が広がり、新しい発見があり、毎年楽しみにしています！

でも参加できません！また、半日開催なので、「参加するのがはじめてだから不安」という人にも、「ちょっとだけ参加してみようかな？」という人にもオススメです！
青年フェスタは、多数の分科会やミニ学習会、抽選会などがある、盛りだくさんの内容となっていますので、きっと明日からの実践のヒントが見つかったり、仲間の輪が広がったり、「月曜日からまた頑張ろう！」と元気になること間違いなし！ぜひ、せっかくの機会ですので、特別支援学校の先生方だけでなく、

他の学校種の先生方ともお話しをしてみたい！もし、ご不明な点、気になる点などありましたら、気軽に大障教までご連絡ください！

みんなでたくさんの方に「トイデキる年」にしていきたいと思います！



集まれは元気！ 分会のとりのくみ

学期末恒例の分会集会を行いました！

12月24日、昼休みを利用して分会集会を開催しました。藤井寺支援分会では、学期毎に分会集会を開催しています。

はじめに、分会長より「分会要求アンケートの集約」、「不妊治療の休暇制度改善の当局提案」「支援学校増設署名」「分会重点要求」について、報告がありました。

分会要求アンケートには、不妊治療に関する要求の記載がありました。大障教は、これまでも不妊治療に関する休暇制度の拡充を求めてきましたが、昨年12月15日、府教委は大障教・府労組連に対して、「無給だった不妊治療休暇を有給の休暇にする」と提案しました。提案は1月19日までが労使の協議期間です。

分会長は、「要求アンケートに、不妊治療の休暇制度の拡充を記入した人が、また組合に加入していないのであれば、是非、加入してほしい」と述べました。また、本分会は、父母と力を合わせて「支援学校増設署名」にとりくんでいます。保護者からは、署名が寄せられており、分会員も署名集約にとりくむことが分会長より再度提起されました。

分会長の報告をうけ、参加者が意見や近況を述べました。そして、今年度の分会重点要求をみんなで確認しました。藤井寺支援分会の重点要求は、分会要求アンケートを踏まえ、①教職員の増員、②泊行事における教職員の食費支給、③常勤看護師配置を定数外とし、かつ増員することです。

(藤井寺支援学校分会 田崎尚弘)

みんなの話を聞いて気が晴れた！

12月27日、終業式後に学期末の分会集会を行いました。翌日が学校閉庁日で年内はこの日が最後の出勤日だったこともあり、休憩時間といえども時間が取れないという方も多く、集まったのは少人数でしたが、2学期を振り返ってひと言ずつ交流することができました。

学校でのICT機器の扱いに関わって、20代から60代まで感じ方の違いにお互い「へえ〜」と、うなずいたり、とにかく毎日忙しくも自由に楽しいとりのくみができたらいいのに、という声、来年度の児童生徒数と教室配置を気にする声、設置基準に関する疑問など、それぞれが2学期に感じてきたことを話し合いました。

普段ゆっくり話す機会が無い、学部や年代を超えた交流に、最後に発言した方は「普段どうなんだろう？と思うこともあるが、今日みんなの話を聞いて気が晴れた」と話され、集まりにくい状況ではあってもお互いの声が開こえる場づくりは、分会の大事な役目だと改めて感じました。(枚方支援学校分会 林陽子)



第33回 青年フェスタ (ZOOM開催)

日時：
2022年2月13日(日)
9:20~12:30

参加費：無料



※詳細はQRコードを参照ください
早めの申し込みをお願いします